

コミュニティ助成事業 ～久井原神楽保存会に胴長太鼓などを整備～

「久井原神楽保存会」は、コミュニティの健全な発展を図ることを目的としたコミュニティ助成事業により、胴長太鼓など(胴長太鼓、締太鼓、神楽鈴、神楽5色鈴緒、烏帽子、白狩衣、鬼面、テントなど)を整備されました。

この、コミュニティ助成事業は、宝くじ社会貢献広報事業費を財源として財団法人自治総合センターが助成決定を行うもので、今後の久井原神楽保存会の益々の活性化が期待されます。



胴長太鼓



鬼面

「里いもの会」熊本県知事表彰

9月21日(金)、熊本県立劇場で、有明地域精神保健福祉ボランティアグループ「里いもの会(代表 坂本竹子さん)」が熊本県知事表彰を受けられました。

「里いもの会」は平成5年に発足し、19年の長きにわたり有明地域で相談支援やふれあい活動などを行われてきました。発足当時から常に当事者をサポートし、精神障がい者の気持ちに寄り添った活動を行っておられます。

地域の祭や、各種イベントでは、啓発シールを付けた黒砂糖販売を通じ、精神障がい者への理解を深める活動を展開中です。

今回の表彰は、この長年の取り組みが評価され受賞に繋がったものです。



左 坂本竹子さん 右 竹下美千代さん

認知症サポーターになりました! ～菊水南小学校で実施～

“認知症になっても安心して暮らせる町”を目指して、認知症サポーター養成講座を開催しています。今年も、町内の各小・中学校を回っています。

今回、講座を受けた児童は、「認知症の人は不安な気持ちでいっぱいだと思うので、もし出会ったらやさしく笑顔で接したい。」「認知症になっても“嬉しい”“ありがとう”といった気持ちはしっかりと残っていることが分かった。」「認知症サポーターとして、今日の話の家族に伝えていきたい。」などの感想が出ていました。

(認知症サポーターとは?)

認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かい気持ちで見守り支援する応援者のことです。講座受講後は、認知症サポーターの証としてオレンジリングを渡しています。



オレンジリングを手にした児童



歩いた学んだ 豊前街道

10月6日(土)～7日(日)、町内の小学6年生47人が豊前街道(熊本城から和水町まで約38km)を歩きました。

38kmもの距離を歩くのは初めてのことで、途中苦しくなることもありましたが、みんなで励まし合い、無事全員で完歩できました。

天候にも恵まれ、参加者はこの2日間で郷土の歴史を学びながら、普段では味わうことのできないような貴重な経験ができました。



10



9



8



7



6

- ① 熊本城を出発
- ② 安全に歩いたよ
- ③ 各名所での説明
- ④ 宿泊先でのゲーム
- ⑤ みんなで寄せ書き
- ⑥ 2日目も元気
- ⑦ 休憩所で果物を食べたよ
- ⑧ 和水町の名所の腹切坂
- ⑨ 急な山道も登りました
- ⑩ 最後まで歩いたよ



1



2



5



4



3